

本の紹介

神津良子. 2003. 犀川・白鳥湖物語, スワンが来るころ帰るころ. 郷土出版社, 松本.

長野県の犀川上流部にダム湖がある。ここに渡来するハクチョウを保護するボランティアの人たちが「アルプス白鳥の会」を発足させた。1985年のことである。本書の第一部は、この会の発足から現在まで活動記録である。会の活動はダム湖に侵入するカヌーへの対策のような地元特有のものから、鉛中毒死防止のための署名活動、その結果を環境庁(現・環境省)に提出する全国的な活動まで多岐にわたっている。ここで、注目すべきなのは、鉛中毒の原因として釣りに使う錘をとりあげている点である。一般に鉛中毒の原因として騒がれているのは、散弾銃の鉛である。釣りの錘もそれに劣らず重要性をもっているにもかかわらず、ほとんど取り上げられなかったのである。第二部は、鉛中毒になった鳥など、傷病鳥を救護する一獣医師の奮闘記録である。第三部は、「白鳥のふしぎ」で、渡来地の紹介、ラムサール条約の解説、ハクチョウの形態や生態、標識の目的、ハクチョウに関する伝説など、『ハクチョウ豆辞典』ともいえる内容である。第四部は、ハクチョウの保護活動も含み、広く自然保護活動のあり方について、いろいろの立場の人たちの意見を紹介している。また、各所にコラムで「白鳥に見せられた人びと」を紹介している。

自然保護活動の記録がきちんとした形で残されることが少ない中で、本書は、一白鳥渡来地をめぐる活動する人びとの長年の記録としても貴重である。(藤巻裕蔵)

